

現代中国における観光開発と社会変動 シリーズ

「負の記憶」を観光資源に

—汶川大地震後の農民の生業に着目する

講師：王曉葵氏

南方科技大学社会科学高等研究院／社科中心 教授

プロフィール

南方科技大学社会科学中心暨社会科学高等研究院教授、副主任。名古屋大学大学院国際開発研究科修了、学術博士。南京大学、中山大学、愛知県立大学、華東師範大学社会発展学院民俗学研究所教授、所長を歴任。研究領域は、災害と戦争の記憶、文化遺産の理論と実践、民俗学の歴史と理論方法、日本文化史。著書には『民俗学與現代生活』（2011年）、『明治維新と文化』（共著、2005年）など多数ある。



日時：2021年2月25日（木）
17:00～18:30

プログラム

趣旨説明 17:00～17:05

張玉玲・南山大学人類学研究所第二種
研究所員／アジア学科教授

講演 17:05～18:20

王曉葵氏・南方科技大学社会科学高等
研究院／社科中心 教授

質疑応答 18:20～18:30

司会

宮脇千絵・南山大学人類学研究所第一種
研究所員／准教授

主催：南山大学人類学研究所

会場：Zoom Webinar

「負の記憶」を観光資源にと題した今回の講演では、2008年の四川汶川大地震で被災し、土地を失った農民たちが観光業に転じたことで生じた、価値観・意識の変容、コミュニティ内外の社会関係の変化と同時に、観光の文脈で地元出身の被災者ガイドが語る被災体験がいかにか「消費」されているか、またそこに国家権力と商業資本がいかにか参入し機能するかなどの問題について、王曉葵氏に、現地におけるフィールドワークに基づいてお話しいただく。

どなたでも無料で参加できますので、ぜひ気軽にお申込みください。

ご参加いただくには事前登録が必要です。ご参加される方は、下記よりお申込みください（締切：2月25日18時30分）

https://regist.nanzan-u.ac.jp/regform/regist/jinruiken_reception/6th0225



現代中国における観光開発と社会変動 シリーズ 趣旨

特に2000年以降、中国政府による観光産業の本格的進展に伴い、各種の有形・無形文化が観光資源として発掘・復興・創造されていった。これによって、農村部と都市部がともに凄まじい経済的、社会的、文化的変動を見せてきた。本シリーズでは、現代中国の観光振興という文脈において、各種の歴史や文化が「資源」として動員されていく過程とそこで生じた社会的変動の諸相を捉えていく。